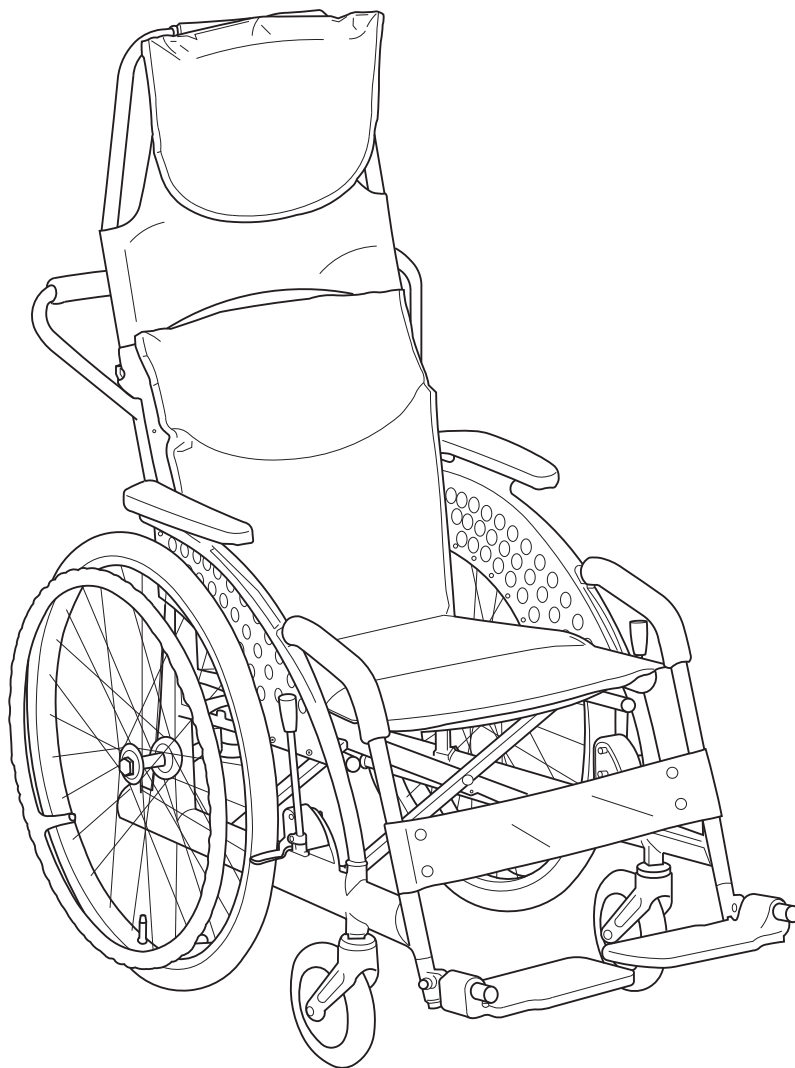


マツナガの車椅子

MZ-1

取 扱 説 明 書

保存用
保証書付



愛の輪
愛のいす



MATSUNAGA

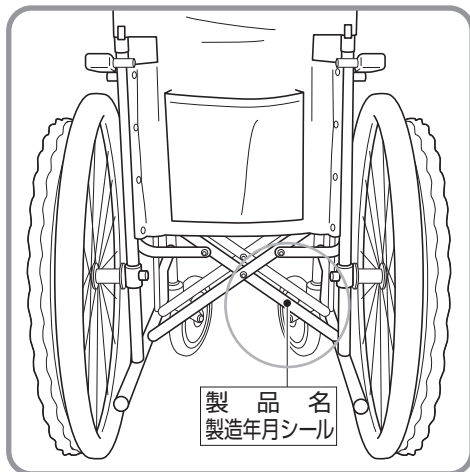
このたびは、(株)松永製作所の製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書には、お客様が安全に正しくご使用していただくために必要な注意事項や使い方が説明されています。

ご使用になる前には、必ずお読みください。

また、付属されている保証書は、紛失しないように大切に保管してください。安全にご使用していただくため、定期的に点検をしていただくようお願いいたします。

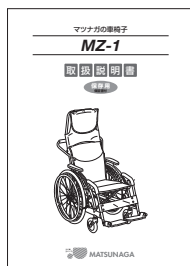
車椅子が、身体に合わない状態でご使用にならないでください。健康をそこなう恐れがあります。そのような場合は、購入されたお店または、かかりつけの病院にご相談ください。



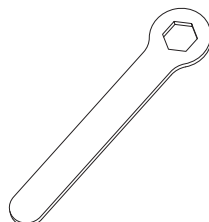
購入された製品の機種名をご確認ください。
機種名は、左記位置に表示してあります。

- お買い上げの製品は、改良などにより、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または、直接弊社までお問い合わせください。

付属品



取扱説明書(当書)



スパナ(13mm)

目 次

安全にお使いいただくために(必ずお守りください)	2
各部の名称	4
ご使用方法	5
ご使用の前に	5
車椅子の拡げ方	6
車椅子の折りたたみ方	7
乗り方・降り方	8
動かし方	9
介助の仕方	10
外出時の注意	11
その他の注意	12
各部機能の使用方法	13
ブレーキの使用方法	13
フットサポートの調整	13
もしこんなトラブルが発生したときは	14
車椅子のお手入れの方法	14
保守・点検	16
車椅子 点検シート	16
消耗品・交換部品	16
廃棄方法	16
保証書	17

安全にお使いいただくために(必ずお守りください)



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があることおよび物的損害の発生する可能性が想定されることを示しています。

お守りいただく表示の説明



この表示は、してはいけない「**禁止**」内容を示しています。



この表示は、必ずしていただく「**強制**」内容を示しています。



警告

(禁止)



- 故障、異常のあるときは、使用しないでください。
事故、転倒などによるケガの原因となります。
- 改造しないでください。
改造によって車椅子の部品の破損、脱落などで安全性が低下して事故、転倒の原因となります。
- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。
ブレーキのロックが出来なくなり、車椅子が動いたりして、事故の原因となります。
- フットサポートの上に乗って、乗り込んだり、立ち上がらないでください。
車椅子がバランスを崩し、転倒事故の原因となります。
- 車椅子のシートの上で立ち上がらないでください。
- アームサポート跳ね上げの場合は、アームサポートを持って、車椅子を持ち上げないでください。
転倒・転落事故の原因となり大変危険です。
- 階段、エスカレーター、段差のあるところ、砂場、砂浜、河原、ぬかるみなどの悪路では使用しないでください。
転倒・転落事故の原因となり大変危険です。
- MRI室で使用しないでください。
非磁性ではありません。磁気に反応し、大変危険です。

(強制)



- 道路の通行は、必ず右側を通行してください。(歩道がある場合は歩道を通行してください。)
道路交通法規を守らないと、交通事故の原因となります。(車椅子は道交法上、歩行者と定められています。)
- 坂道の登り下りの時は、介助者の方が支えて行ってください。
スピードが出たり、バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。
- バックサポート折りたたみの場合、バックサポートがロックピンによって、完全にロックされていることを確認してください。
急にバックサポートが倒れ、転倒・転落事故の原因となります。
- 車椅子への乗降時及び、ベッドへの移乗時などは、駐車用ブレーキをロックしてください。
車椅子が動き、転倒事故の原因となります。
- 側溝の格子蓋や踏切などでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいて行ってください。
車輪が溝にはまって転倒事故の原因となります。
- 使用者最大体重を守ってご使用ください。



注意

(禁止)



- バックサポート及びバックサポートパイプに重いものを引っ掛けないでください。
車椅子が不安定になり、転倒事故の原因となります。
- 車椅子を揺るがせる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
パイプに手や指を挟んでケガをします。
- 介助者の方は、制動用ブレーキで急ブレーキをかけないでください。
使用者が前方へ転倒する恐れがあります。
- アームサポートを跳ね上げた状態で、アームサポートに力を加えないでください。
破損の原因となります。

(禁止) 	■タイヤを持って車椅子を操作しないでください。 ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。 ■スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。 摩擦で、手にケガをする恐れがあります。 ■走行中、身体を乗り出さないでください。バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。 ■車輪に、身体の一部や物を差し込まないでください。 手や指を挟んで、ケガをする原因となります。 ■バックサポートパイプのみで、キャスト(前輪)を上げないでください。 バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、転倒事故の原因となります。 ■スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。 使用者が車椅子から転落して、事故の原因となります。 ■バックサポート折りたたみの場合は、使用者が車椅子に乗っている状態でグリップを持って持ち上げないでください。 パイプが外れたりして、転倒・転落事故の原因となります。 ■車椅子を横向きに倒して、上に物を置かないでください。 重みで車輪フレームが曲がったりして、故障の原因になります。 ■バックしながら、急停止しないでください。転倒事故の原因となります。 ■凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で使用しないでください。 バランスを崩し、前に転倒して事故の原因となります。 ■火気の近くに置かないでください。 タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。 ■使用者の移動目的以外では、使用しないでください。(台車の代わりに使用しないでください)
(強制) 	■車椅子を上げた時、座パイプが受けに収まっているか、確認して座ってください。 パイプが曲がったりして、転落事故及び故障の原因になります。 ■車椅子を折りたたむ際には、背シート・ポケットの中に物が入っていないことを確認してください。 ポケットの中の物を破損したり、車椅子の故障の原因となります。 ■フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。 フットサポートが脱落し事故の原因になります。 ■フットサポートの高さは地面より5cm以上でご使用ください。 路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に車椅子が止まり、転倒事故の原因になります。 ■乗り降り、駐車は平坦な場所で行ってください。 車椅子が動いたりして、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。 ■坂道を下るとき介助者の方は、車椅子を後ろ向きでゆっくり確認しながら走行してください。 前向きで下ると、乗っている人がすり落ちたり、前のめりとなり、転倒事故の原因となります。 ■側溝の格子蓋、踏切のレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。 車椅子が急に止まり使用者の身体が前方に傾き、転落・転倒事故の原因となります。 ■介助者の方は、移動中に使用者のつま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。 ■介助者の方は、フットサポートに使用者の足が乗っているか確認して走行してください。 ■安全ベルト装着機種は、ベルトを締めてください。 転落し事故の原因となります。 ■マジックテープに付いた糸くずや汚れを取り除いてください。 接着力が弱くなり製品機能を損なう恐れがあります。 ■車椅子を自動車に載せる(降ろす)際は、車椅子に大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。 車椅子の破損や故障の原因となります。

各部の名称

自走用標準形・介助用標準形

グリップ

介助者が押すために使用します。

駆動輪

駆動を伝える車輪です。

ハンドリム

駆動輪を操作するとき、使用します。

ティッピングレバー

キャストを上げたりするため介助者が足で踏むとき使用します。

駐车用ブレーキ

乗り降りの時、車椅子が動かないようにするために使用します。

ブレーキの使用方法 P.13

キャスト(前輪)

ヘッドサポート

頭をもたれかけるところです。着脱できます。

バックサポート(背もたれ)

背をもたれかけるところです。

アームサポート

肘を乗せるところです。

シート

座るところです。

フットサポート

足を乗せるところです。

フットサポートの調整 P.13

レッグサポート

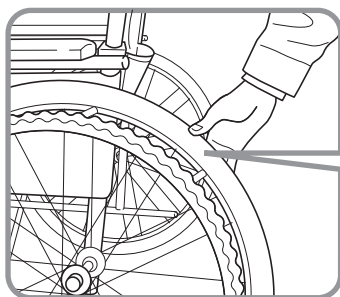
足が後方に落ちないように保護します。

ご使用方法

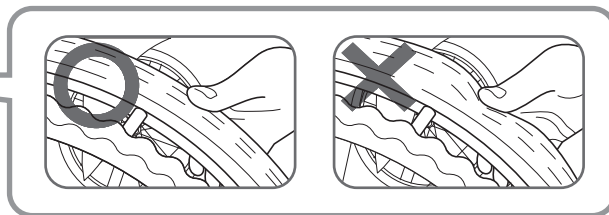
ご使用の前に

■ご使用前に、安全にご使用していただくため、次の確認をお願いします。

- ・タイヤの摩耗・亀裂はないか。
- ・タイヤの空気圧は適正か。
- ・ブレーキに異常はないか。
- ・ブレーキをロックした時、駆動輪・主輪が回転しないか。
- ・P.16点検シートを参照してください。



タイヤを親指で押し、容易にへこむ場合は、
自転車用空気入れで空気を補充してください。



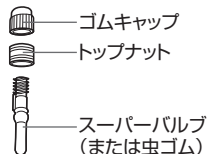
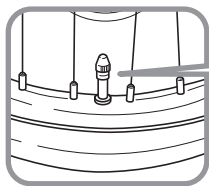
適正空気圧

350kPa(3.5kgf/cm²)

タイヤの側面に記載されている
表示を確認してください。

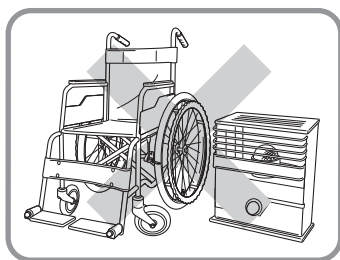
タイヤの空気バルブの
トップナットが緩んで
いないか確認してください。

タイヤの空気がすぐに抜けるときは、
スーパーバルブ(または虫ゴム)を
交換してください。



警告

- タイヤの空気圧が少ない状態で、
使用しないでください。
(ブレーキのロックが出来なくなり、
車椅子が動いたりして、事故の原因
となります。また、タイヤのパンクの
原因となります。)

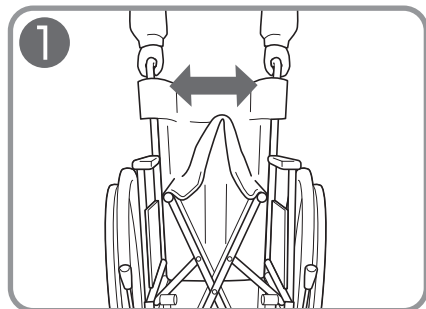


注意

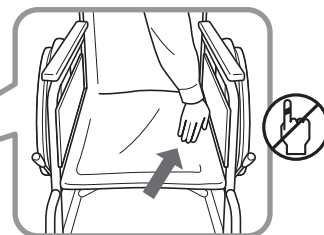
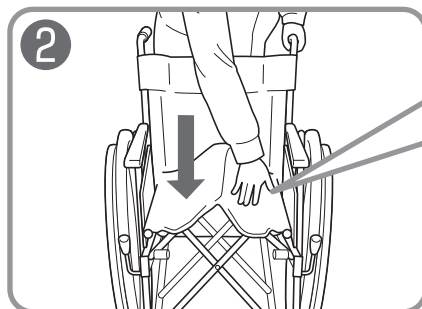
- 火気の近くに置かないでください。
(タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。
また、パイプ等が加熱されやけど等ケガの原因となります。)

車椅子の拡げ方

① 車椅子の後方に立ち、左右のグリップを持って両側に拡げます。



② 片側のグリップを手で持ち、シートを手で下に押し下げると、車椅子が拡がります。



※手・指に注意



注意

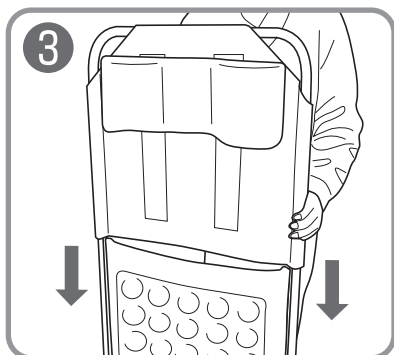
●車椅子を拡げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
(パイプに手や指を挟んでケガをします。)



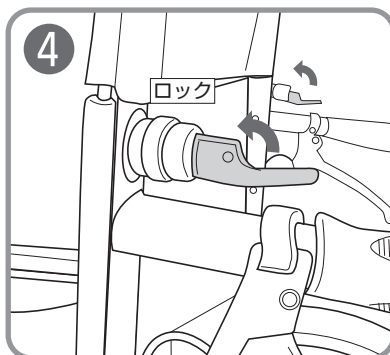
注意

●車椅子を拡げた時、座パイプが受けに収まっているか、確認して座ってください。
(パイプが曲がったりして、転落事故及び故障の原因になります。)

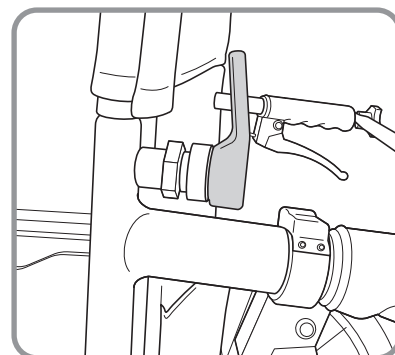
③ ヘッドサポートを取り付ける。



④ ロックレバーのロックを確認する。



(ロックした状態)



注意

●ヘッドサポートのロックを確実にかけてください。
(外れて、転倒・転落事故原因となります。)

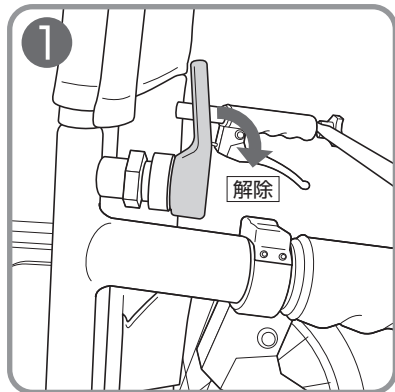


注意

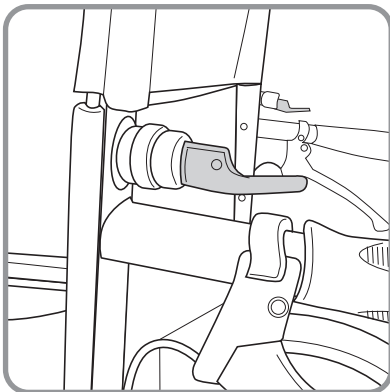
●必ずヘッドサポートを取り付けてご使用ください。
(パイプ差込口で手や頭にケガをする原因となります。また、フレーム強度が低下し、破損の原因となります。)

車椅子の折りたたみ方

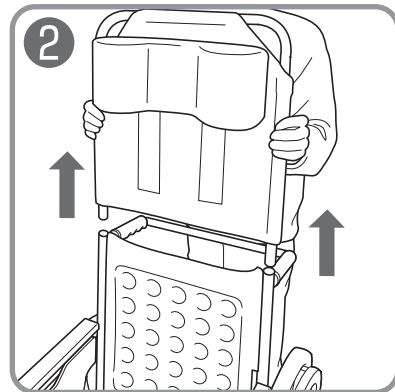
① ロックレバーを倒す。(左右共)



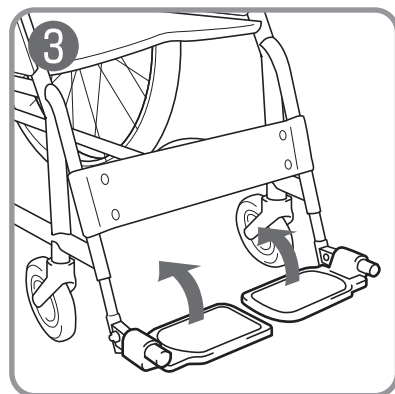
(解除した状態)



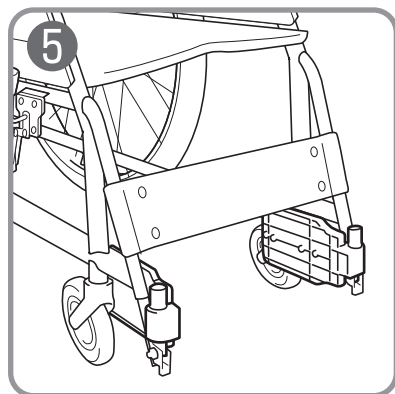
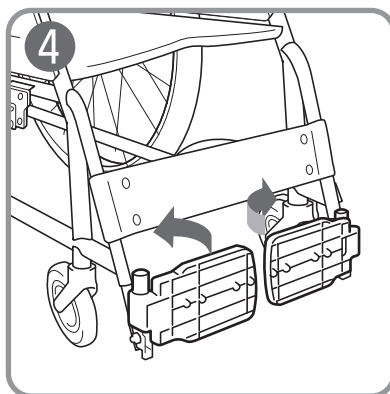
② ヘッドサポートを外す。



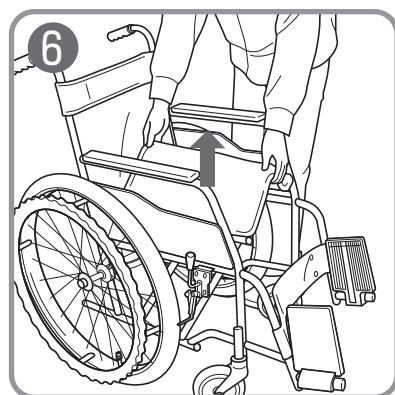
③ フットサポートを上方向に折りたたむ。



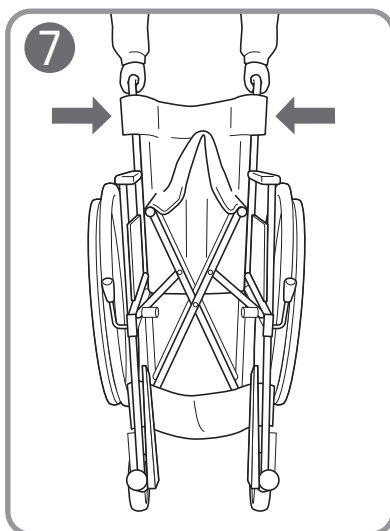
④ フットサポートを内部に格納する。



⑥ シートの前方と後方の中央を同時に持ち上げる。



⑦ 左右のグリップを持ち内側にたたむ。



乗り方・降り方

下記乗り方・降り方は、一例です。



警告

●車椅子に乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ず駐車用ブレーキをロックしてください。
(車椅子が動き、転倒・転落事故等の原因となります。)

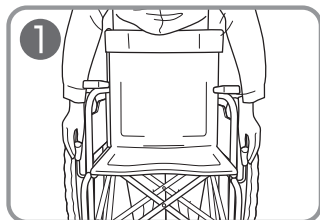


注意

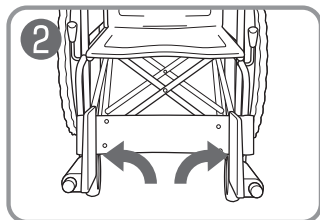
●車椅子の乗り降りは、路面の平坦な場所で行ってください。
(車椅子が動いてバランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。)

乗る時

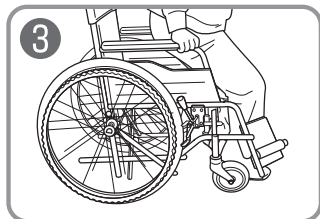
① 駐車用ブレーキを両側ロックします。



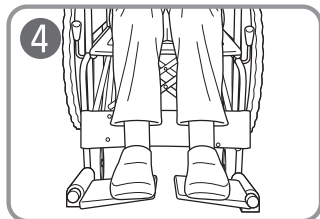
② フットサポートを両側上げます。



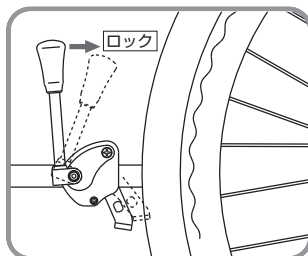
③ 両手で、アームサポートを持ち
ゆっくり座り込みます。



④ フットサポートに足を乗せます。

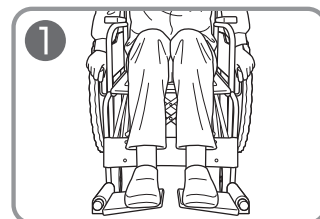


駐車用ブレーキ

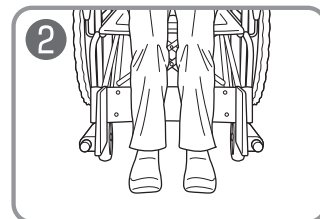


降りる時

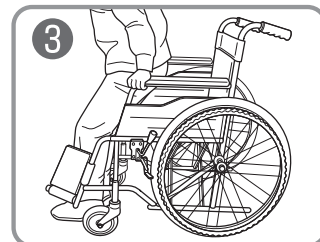
① 駐車用ブレーキを両側ロックします。



② フットサポートを上げ、足を下ろします。



③ 両手で、アームサポートを持ち
ゆっくり立ち上がります。



警告

●フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。
(車椅子がバランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。)



警告

●乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。
(レバーが変形・破損し、転倒する恐れがあります。)



警告

●乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないように注意してください。
(けがをする恐れがあります。)



注意

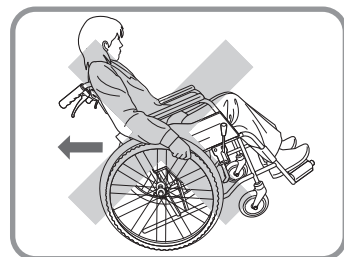
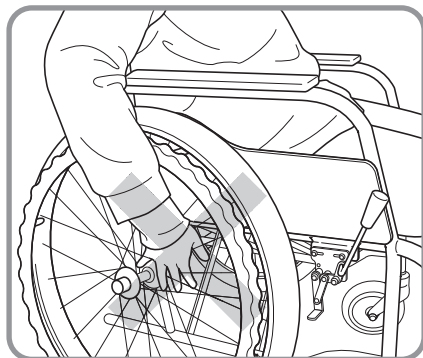
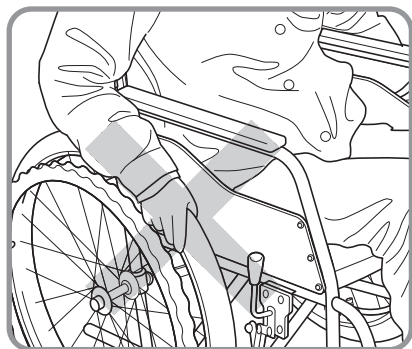
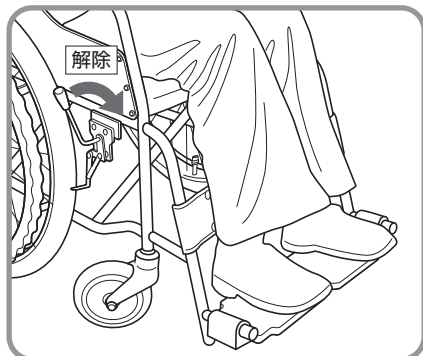
●フットサポートを足で上げる場合は、素足では行わないでください。
(けがをする恐れがあります。)

動かし方

一般的な動かし方

(自走用車椅子の場合)

駐車用ブレーキを両側解除する。



ハンドリムを握り車輪を
回転させ移動させる。



注意

- タイヤを持って車椅子を操作しないでください。
(ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。)



警告

- 走行スピードは各自コントロールできる速度で走行してください。



警告

- 駐車用ブレーキで減速しないでください。
※減速はハンドリムにて行ってください。
但し、スピードが出すぎている場合は、
摩擦でケガをする恐れがあります。



警告

- 走行中、身体を乗り出さないでください。
(バランスが不安定になり、転倒・転落事故の
原因となります。)



注意

- 車輪に、身体の一部や物を差し込まないでください。
(手や指をはさんで、ケガをする原因となります。)

※このような場合にはオプションのスポークカバーの
使用をおすすめします。



注意

- バックしながら急停止しないでください。
(転倒事故の原因となります。)



注意

- フットサポートの下には足を入れないでください。
(足を地面でこすったり、フットサポートやキャスタなどに足を
ぶつけてけがをする恐れがあります。)



注意

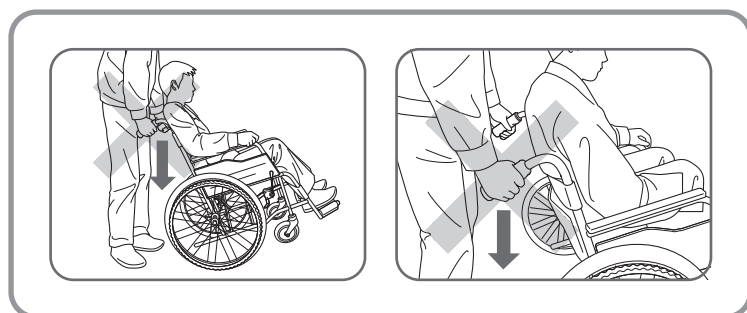
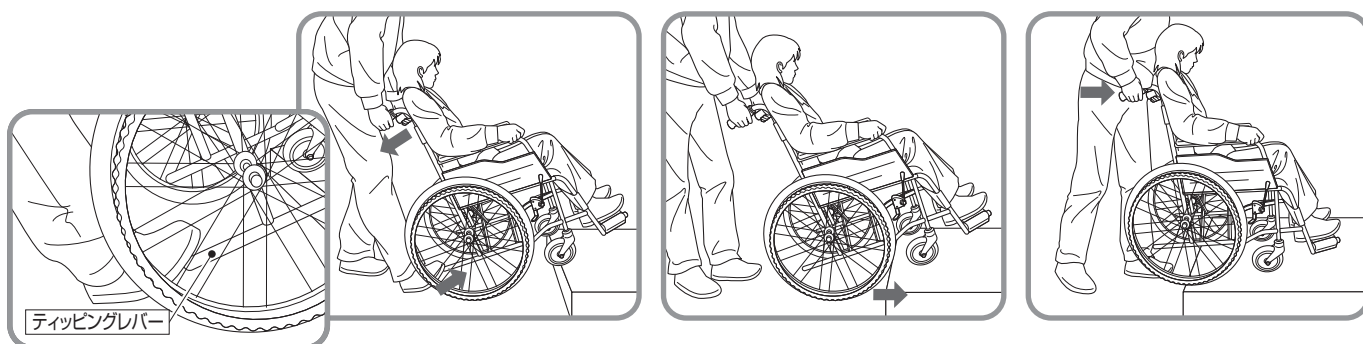
- 足こぎで操作される場合、フットサポートに足をぶつけないで
ください。(けがをする恐れがあります。)

介助の仕方

次のような使用場所や環境では、危険が伴う場合がありますので、必ず介助者の方が付き添ってください。介助者が付き添っていない場合は周りの人に介助をお願いしてください。

- ・坂道
- ・踏切の横断
- ・側溝の格子蓋の横断
- ・悪路
- ・乗り物への乗車、降車
- ・段差乗り越え
- ・傾斜している路面

介助者の方は、段差を乗り越える場合は、ティッピングレバーを斜め前に踏みながらグリップを手前に引きキャスト（前輪）を上げ、前輪を段差に乗せてから、後輪を段差に当て、押しながら乗り越えてください。



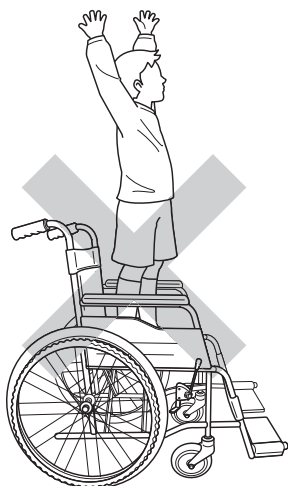
注意

- グリップのみで、キャスト（前輪）を上げないでください。
（バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、転倒して事故の原因となります。）



警告

- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。
（使用者が車椅子から転落して、事故の原因となります。）



警告

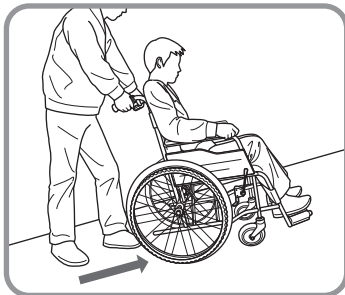
- 車椅子のシートの上で立ち上がらないでください。
（転倒事故の原因となります。）

外出時の注意

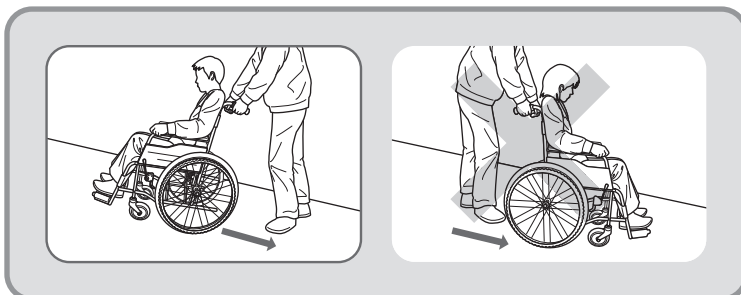
介助者援助をお願いしてください。

坂道の登り下りでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいて行ってください。

登り坂



下り坂



注意

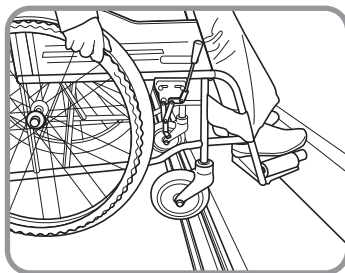
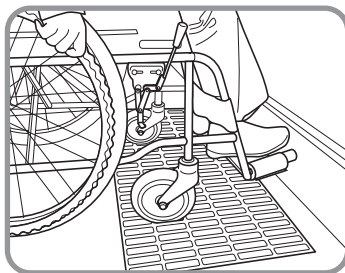
- 坂道を下るとき介助者の方は、車椅子を後ろ向きでゆっくり後方を確認しながら走行してください。（前向きで下ると、使用者がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒事故の原因となります。）



注意

- 凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で使用しないでください。（バランスを崩し、前に転倒して事故の原因となります。）

介助者援助をお願いしてください。



警告

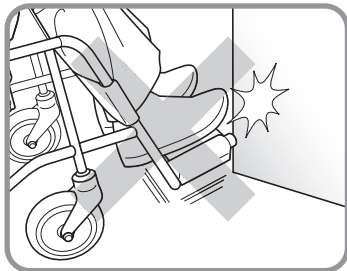
- 側溝の格子蓋や踏切などでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいて行ってください。（車輪が溝にはまって転倒事故の原因となります。）



注意

- 側溝の格子蓋、踏切のレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。（車椅子が急に止まり使用者の身体が前方に傾き、転倒・転落事故の原因となります。）

【介助者の方へ】



注意

- 移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。



注意

- フットサポートに、足が乗っているか確認して走行してください。

車椅子を持ち上げようとして次のような箇所は、持たないでください。

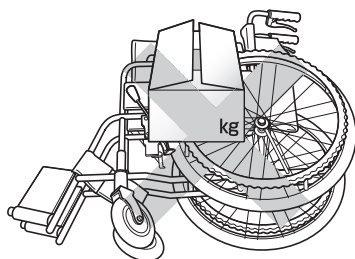
- ・バックサポートが折りたたみ式のバックサポートパイプ部
- ・アームサポートが可動式のアームサポート部
- ・フット・レッグサポートが可動式のフット・レッグサポート部
- ・車輪



■階段などで、使用者が乗ったままの状態、介助者に吊り上げてもらう場合

ベースパイプ・バックサポートの固定されている箇所を持って、4～5人で支えてもらってください。

その他の注意



注意

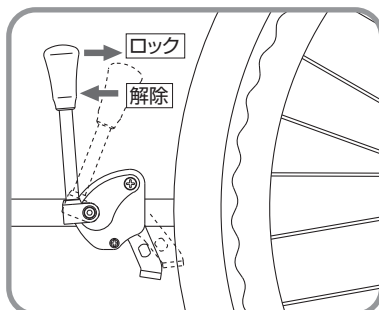
- 車椅子を横向きに倒して、上に物を置かないでください。
(重みで車輪フレームが曲がったりして、故障の原因になります。)

各部機能の使用法

ブレーキの使用法

- ブレーキレバーを後方に引くとロックします。
- ロックした方向と反対に引くと解除します。

駐車用ブレーキ



警告

- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。
(P.5 で使用の前に参照)
(ブレーキのロックが出来なくなり、車椅子が動いたりして、事故の原因となります。)



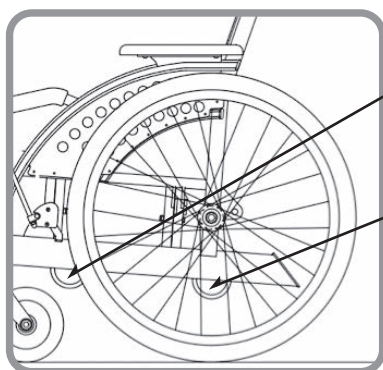
警告

- 車椅子に乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ず駐車用ブレーキをロックしてください。
(車椅子が動き、転倒事故の原因となります。)

車載時のフックポイントについて

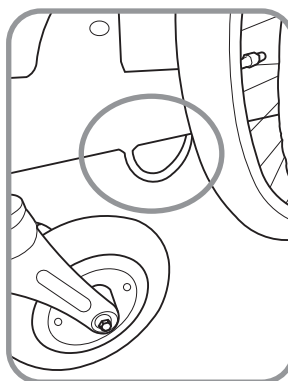
車椅子には、片側2か所(1台分に4箇所)のフックポイント(※)を設けています。下記の箇所にフックを引っかけてください。
固定後は車椅子のブレーキをロックしてください。

※車載の時に、自動車と車椅子を固定する為に、フックを引っかける箇所

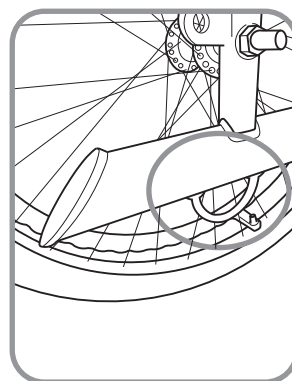


①フックポイント
→キャストの後方

②フックポイント
→車軸の下



①フックポイント
→キャストの後方



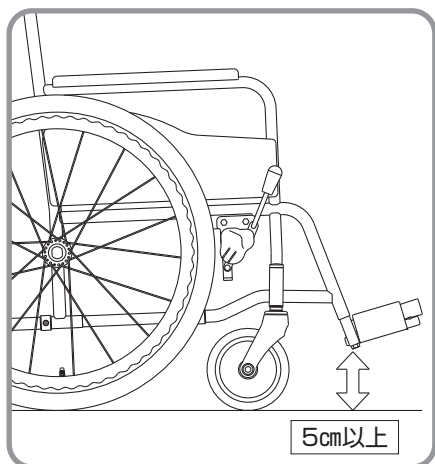
②フックポイント
→車軸の下



警告

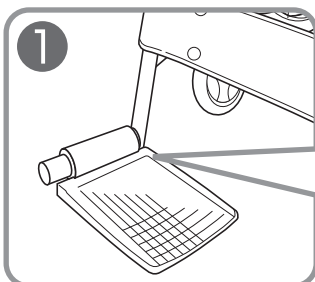
- フックポイント以外にはフックを引っかけないでください。
(車椅子が自動車としっかり固定されず、危険です)
- 自動車と車椅子の固定後は、ブレーキをロックしてください。

フットサポートの調整

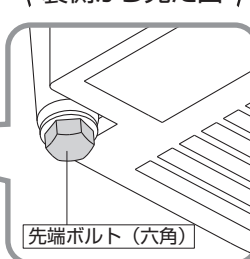


〈高さ(長さ)の調整〉 使用工具 スパナ(13mm)

- ① フットサポートを少し上げ、付属品のスパナで先端ボルトを少し動かすところまで緩める。



〈フットサポート
裏側から見た図〉



※適正トルク
20Nm

- ② 高さを調整し、先端ボルトを締める。



注意

- フットサポートの高さは地面より5cm以上でご利用ください。
(路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に車椅子が止まり、転倒事故の原因になります。)



注意

- フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。
(フットサポートが脱落し事故の原因になります。)

もしこんなトラブルが発生したときは

車椅子をご使用されていて「故障かな」と思うトラブルが発生したら、修理を依頼するまえに下記項目を確認してください。

ト ラ ブ ル	確 認 点	対 処
タイヤの空気が少ない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
空気を入れてもすぐに抜ける	・タイヤの空気入れ部のネジは、しっかり締まっていますか	しっかり締め直してください
	・スーパervalブ(または虫ゴム)が劣化していませんか	スーパervalブ(または虫ゴム)を交換してください
走行操作が重い	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	・駆動輪・キャストに髪の毛、ビニール等が巻きついていませんか	取り除いてください
真っ直ぐ走らない	・キャスト(前輪)が片べりしていませんか	取扱店にご連絡してください
ブレーキが効かない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	・タイヤは、摩耗していませんか	取扱店にご連絡してください

車椅子のお手入れの方法

■清掃は、水につけたタオルを強くしぼり、泥やホコリを拭き取った後に乾いた布で仕上げ拭きをしてください。

揮発性剤(シンナー・ベンジン・アルコール類)では、清掃しないでください。

変色したり、劣化の原因となります。

ホースなどで、直接水をかけないでください。車輪及びフレーム内部・ブレーキ部に水滴が残り、錆の原因となります。

■タイヤの空気圧は、最適空気圧を適正に保ってください。

空気圧が低いときは、補充してください。

■タイヤには、ひび割れを防ぐ為に劣化防止剤が配合されていますので、次のような環境及び薬剤はさけてください。タイヤの劣化を促進させ、ひび割れの発生原因となります。

- オゾン(O₃)
- 光線(紫外線)、熱・伸張等の機械的作用
- 銅・マンガンのような金属の塩、石鹼などの容易に酸化される物質
- シリコン系ワックス(自動車タイヤ用ツヤ出し剤、潤滑剤(錆落とし剤含む))

■車椅子に異常がある場合は、取扱店で、点検・修理を行ってください。

そのままの状態で使用されますと、使用中に破損し、事故の原因となります。

- タイヤ・キャスト輪の劣化・ひび割れ・空気漏れ
- フレームのひび割れ・曲がり・ガタツキ
- 各部固定部品の変形
- 駆動輪・キャストの変形
- ボルト・ナット・ビスの緩み
- 制動用ブレーキ・駐車用ブレーキの効き具合

保管場所

次のようなところでは、保管しないでください。
故障の原因となります。

●雨に濡れるところ ●直射日光が当たるところ ●湿気の多いところ ●高温になるところ(45度以上) ●炎天下

保証

●保証期間は、お買い上げ後1カ年です。(本体、付属品共)

ただし、次の場合は、保証期間中でも有償修理とさせていただきます。修理に要する運賃等の諸経費を含みます。

1. 火災、天災による故障・損傷の場合
2. 取扱説明書に記載の使用方法、警告・注意に反するお取扱いによって発生した故障の場合
3. 無断仕様変更及び、改造による故障の場合
4. タイヤの摩耗、パンク、シートのやぶれ、ブレーキ、制動用ブレーキ用ワイヤー、ブレーキゴム、キャスト、各部ベアリング等の消耗品、及び各部の劣化による故障、損傷の場合

●この保証書は日本国内のみ有効です。

●保証修理をお受けになる場合は、必ず保証書をご提示ください。

保証書の提出がない場合には、保証修理をお受け致しかねます。

●保証書はお買い上げ店で発行致します。記入漏れがあると、保証期間内でも保証修理が受けられません。

●保証書の再発行は致しません。大切に保管してください。

アフターサービス

万一故障の場合は、お買い上げいただきました販売店、または松永製作所へ保証書ご持参の上、修理をお申しつけください。

保守・点検

車椅子 点検シート

安全にご使用していただくために、ご自身・お買い求めの販売店(有料)で定期的に点検をしていただくようにお願いします。

(長期間ご使用にならなかった場合は、ご使用前に点検をしてください)

点検の結果、異常があった場合はご使用にならず、調整・部品交換をしてからご使用ください。

点検項目		年 月 日 点 検 者				
キャスタ(前輪)	亀裂・キズの有無					
	キャスタの摩耗					
	スムーズな回転					
キャスタフォーク	損傷の有無					
	スムーズな旋回					
	タイヤの空気圧					
駆動輪・主輪	タイヤの摩耗					
	スムーズな回転					
	ホイールのキズの有無					
	スポークの緩み(自走のみ)					
	各部キズの有無					
本体・クロスフレーム	ボルト・ナットの緩み					
	スムーズな折りたたみ					
	ブレーキの効き					
駐车用ブレーキ	シート					
バックサポート (背もたれ)・シート	シート固定ネジの緩み					
	プレート					
フットサポート	固定ボルトの緩み					
	パッドの破損					
アームサポート						
その他						

消耗品・交換部品

それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。

品名	交換時期
駆動輪・主輪	タイヤの表面に溝がなくなったとき
キャスタ	タイヤの表面に溝がなくなったとき
シート	ほつれ、切れ目が発生したとき ひどく汚れたとき マジックテープの接着が弱くなったとき

廃棄方法

- ・お住まいの各自治体の指示にしたがい、処分・廃棄してください。
- ・地球環境のため、放置はしないでください。

[illegible]

愛の輪
愛のいす



MATSUNAGA

株式会社 松 永 製 作 所

〒503-1272 岐阜県養老郡養老町大場484

TEL 0584-35-1180(代) FAX 0584-35-1270

URL <http://www.matsunaga-w.co.jp>